

## 赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂5版）案 パブリックコメント募集

平成26（2014）年12月、赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドラインが大幅に改訂され、平成28年（2016）10月に改訂2版として抗D試薬の直後判定、間接抗グロブリン試験、反応増強剤、不規則抗体スクリーニングに用いる検査法、日本人に検出される不規則抗体や分子標的治療薬剤の対処法などが記載され小改訂された。改訂3版（2020年）では、輸血療法の実施に関する指針の改定に伴う内容変更と、日本から出されたエビデンスをもとに、新生児の赤血球系検査を中心に改定された。改訂4版（2021年）では、不規則抗A1または抗Bへの対応として血液製剤の選択を記載、不規則抗体スクリーニングでは抗体の推定の考え方について整理し、コンピュータクロスマッチの条件について明瞭にした。

今回の改訂の主な内容は、患者検体の項において患者誤認防止措置を記載、採血後検体の有効期間や残余検体等の保管期間を明確化した。更に成人と生後4か月未満の児を類別し、生後4か月未満の児に対する過剰な採血の防止を図った。検査の質の担保として求められる精度保証は新たに項目を追加し、求められる実施体制を明示した。項番号の追加に伴い、これまで様々な項に記載のあった文章などを整え、重複箇所を削除した。血液型抗原の記載順についてはISBT（International Society of Blood Transfusion）の血液型リストに合わせ表記変更した。そして、生後4か月未満の児の検査について記載を集約化し、明瞭にした。また交差適合試験の項からコンピュータクロスマッチを独立させ、視認性の向上を図った。

本パブリックコメントで、会員の皆様より忌憚のないご質問、ご意見およびご提案を賜りたく存じます。ご協力をお願いいたします。

2024年12月2日

日本輸血・細胞治療学会 理事長 岡崎 仁

同ガイドライン委員会委員長 松本雅則

同赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン小委員会委員長 奥田 誠

同赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン小委員会副委員長 池本純子